

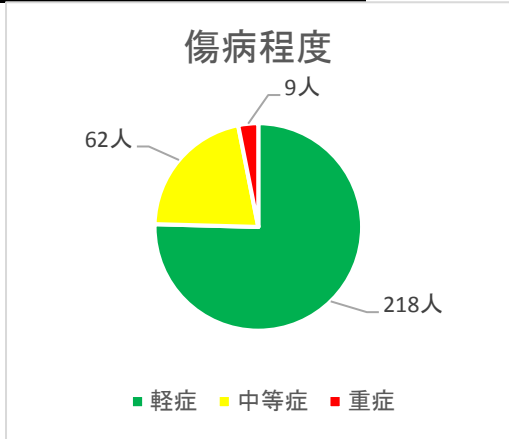
熱中症発生状況 統計データ ～年齢区分別詳細分析～

統計対象期間 **平成26年～平成30年(5年)**
6月～9月(4ヶ月)

成人 289件

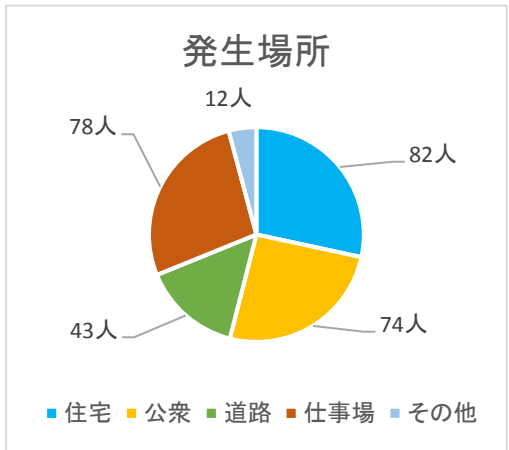
傷病程度

	件数	割合
軽症	218	75.4%
中等症	62	21.5%
重症	9	3.1%



発生場所

	件数	割合
住宅	82	28.4%
公衆	74	25.6%
道路	43	14.9%
仕事場	78	27.0%
その他	12	4.2%



その他

*発生場所のトップは「住宅」82件であり、次いで「仕事場」78件でした。「公衆」での発生も多くこの3か所で全体の約3分の1を占める割合になっています。

成人について

成人については熱中症が発生したとしても約75%は軽症であり、発生場所のほとんどは**自宅、公衆及び仕事場**で多く発生していることがわかります。住宅で発生しているものでも、日中に草むしりや、屋外でスポーツを行った後に帰宅して発症しているものが約半数を占め、自宅以外の公衆場所で発生した熱中症も屋外作業中による発症で、潜在的な仕事、作業中というのを勘案すると、**成人年齢層においては半数以上が仕事もしくは作業中に発症**したことがわかります。このことから、成人年齢区分による熱中症発生状況は環境リスクが生んでいることが主な原因であると考えられます。

適度な休憩や、こまめな水分補給など計画的な対策を行うことが必要です。

